



第95期 事業報告書  
平成17年4月1日～平成18年3月31日

意 Style  
【 KOKORO 】

日本タングステン  
の技術が街の灯りを  
支えています。

九州の夜景【vol.1】

ももち  
福岡市百道周辺の夜景  
アジアへとつながる博多湾に面  
したシーサイトももち。IT関連な  
どの先端産業や図書館・ヤフード  
ームなどの文化・レジャー施設が  
集まる、福岡の未来を象徴するエ  
リアです。ここでも日本タングス  
テンの技術が活かされています。



# 1.株主の皆さまへ

## ごあいさつ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は、本年4月1日をもちまして創立75周年を迎えることができました。

1931年(昭和6年)、タンクスチーン製品の製造・販売会社として誕生して以来、今日まで粉末冶金技術を基礎にレアメタル、ファインセラミックス製品の材料・部品メーカーとして、多くの産業分野でご愛顧いただいてまいりました。

おかげさまで75周年を迎えることができますのも、ひとえに皆さま方の長年に亘るご支援、ご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

当社の経営理念である“創意”、“誠意”、“熱意”<sup>こころ</sup>の3つの意を基本に、これからも皆さま方のご期待、ご要望にお応えできるよう、真摯に努力してまいる所存でございます。

ここに当社グループ第95期(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)の営業の概況等につきまして、ご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

次世代マテリアルの  
パイオニアとして  
未来へ向けて挑戦。



取締役社長 吉田省三



## 目 次

1. 株主の皆さまへ	01
2. 営業の状況	03
3. 財務ハイライト	04
4. 財務諸表	05
5. 特集 創立75周年にあたって	09
6. タングステンのすべて	11
7. 会社の概要	13
8. 企業結合の状況	13
9. 株式の状況	14

## 2. 営業の状況

### (1) 企業集団の営業の経過および成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油価格の上昇や原材料価格の高騰により景気へのマイナスの影響もありましたが、いわゆるバブル期の設備、雇用、債務の3つの過剰がほぼ解消に向かいつつあり、これにより企業収益は大きく改善し、民間設備投資の増加や個人消費の緩やかな回復にも支えられ景気は順調に回復基調を辿りました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、顧客とともに歩むカスタマーフレンドリー企業、企業価値の向上、収益力基盤の強化を年度方針とし、グループの総合力を活かした事業活動を展開した結果、売上高は

前年同期比15.3%増の123億6千8百万円となりました。

利益面につきましては、原材料価格の高騰が続きコストの増加要因もありましたが、増収による利益率の向上、コストダウン施策等により、経常利益は前年同期比76.9%増の9億7千4百万円となり、また、当期純利益は前年同期比10.8%増の5億3千8百万円となりました。

なお、関連会社の財務内容悪化に伴い、出資金評価損を単独決算で計上しております。

セグメント別の状況につきましては後掲の「セグメント別の状況」に記載しております。

### (2) セグメント別の状況

#### ■ 粉末冶金事業

当社グループの主要事業であります粉末冶金事業は、液晶関連部材用のタングステン・モリブデン棒製品やHDD用磁気ヘッド基板等が、IT関連市場の活況を受け好調に推移いたしました。一方、超精密加工品は、デジタルカメラ市場の成長が鈍化するなか、企業間競争の激化により受注が低迷いたしました。

このほか、機械関連製品の衛生用品製造用の超硬合金製NTダイカッターは、海外市場の受注回復により好調に推移し、自動車向け切削工具や抵抗溶接用電極、弱電用のブレーカー用接点、半導体製造機器用の部品も堅調な需要のもと伸長しました。

この結果、粉末冶金事業の売上高は前年同期比15.1%増の116億9千3百万円となりました。

#### ■ 産業用機器事業

産業用機器事業は、半導体関連の製造用部品および装置関係が堅調に推移し、受託加工も市場の回復に伴い底堅く推移いたしました。この結果、産業用機器事業の売上高は前年同期比27.7%増の5億5千5百万円となりました。

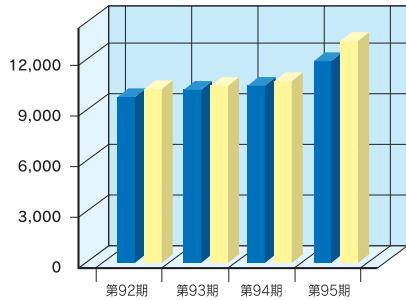
#### ■ その他事業

その他事業は、賃貸ビルの共益費収入の減少の影響や仕入商品販売の不振により、売上高は前年同期比9.2%減の1億2千万円となりました。

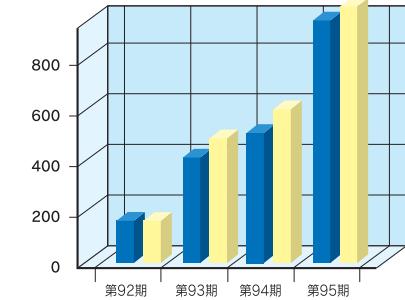
### 3.財務ハイライト



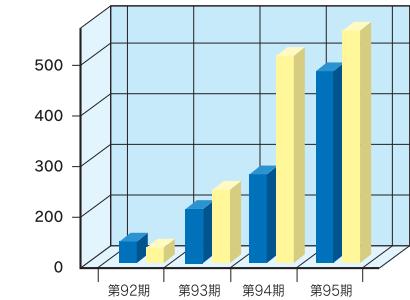
売上高（百万円）



経常利益（百万円）



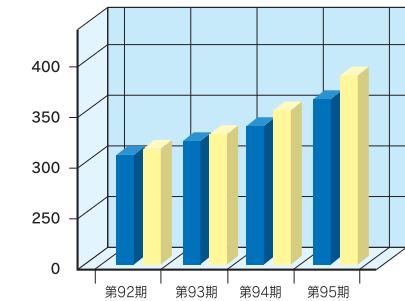
当期純利益（百万円）



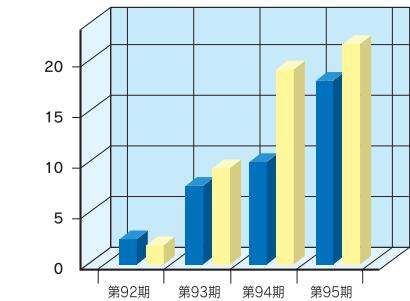
自己資本比率 (%)



1株当たり純資産額（円）



1株当たり当期純利益（円）



# 4.財務諸表

## 連結決算 表示金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表（要約）

科 目	当期(第95期)	前期(第94期)
<b>流 動 資 産</b>	<b>8,817</b>	<b>7,932</b>
現 金 及 び 預 金	1,676	1,550
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	4,392	4,002
た な 卸 資 産	2,360	1,918
そ の 他	392	474
貸 倒 引 当 金	△5	△14
<b>固 定 資 産</b>	<b>10,462</b>	<b>9,828</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>7,459</b>	<b>7,727</b>
建 物 及 び 構 築 物	5,355	5,637
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	1,558	1,622
そ の 他	545	467
<b>無形固定資産</b>	<b>23</b>	<b>35</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,979</b>	<b>2,065</b>
投 資 有 働 証 券	2,692	1,834
そ の 他	386	249
貸 倒 引 当 金	△98	△18
<b>資 産 合 計</b>	<b>19,280</b>	<b>17,760</b>

科 目	当期(第95期)	前期(第94期)
<b>流 動 負 債</b>	<b>5,598</b>	<b>5,075</b>
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	1,187	1,158
短 期 借 入 金	3,152	3,051
そ の 他	1,258	865
<b>固 定 負 債</b>	<b>4,289</b>	<b>4,188</b>
長 期 借 入 金	1,423	1,395
退 職 給 付 引 当 金	1,237	1,596
そ の 他	1,628	1,196
<b>負 債 合 計</b>	<b>9,888</b>	<b>9,264</b>
<b>資 本</b>	<b>2,509</b>	<b>2,509</b>
資 本 剰 余 金	2,229	2,229
利 益 剰 余 金	4,282	3,909
株 式 等 評 価 差 額 金	1,118	644
為 替 換 算 調 整 勘 定	△135	△189
自 己 株 式	△612	△607
<b>資 本 合 計</b>	<b>9,392</b>	<b>8,495</b>
<b>負 債 及 び 資 本 合 計</b>	<b>19,280</b>	<b>17,760</b>

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 13,906百万円

資産は売上債権及びたな卸資産等の流動資産が増加し、また、投資有価証券、関連会社出資金等の固定資産も増加したことにより、資産合計は前年同期末に比べ15億1千9百万円増加しました。  
 負債は仕入債務、未払法人税等の流動負債が増加し、また、固定負債では退職給付引当金が減少した一方で、繰延税金負債が増加したため負債合計は前年同期末に比べ6億2千3百万円増加しました。  
 資本は利益剰余金やその他有価証券評価差額金が増加し、資本合計は 前年同期末に比べ8億9千6百万円増加しました。

### 連結損益計算書（要約）

(百万円)

科 目	当期(第95期)	前 期(第94期)
売 上 高	12,368	10,723
売 上 原 価	9,301	8,377
販売費及び一般管理費	1,955	1,778
當 業 利 益	1,111	567
當 業 外 収 益	236	224
當 業 外 費 用	373	241
経 常 利 益	974	550
特 別 利 益	—	298
特 別 損 失	4	144
税金等調整前当期純利益	969	705
法人税、住民税及び事業税	177	24
法 人 税 等 調 整 額	253	194
当 期 純 利 益	538	486

### 連結剰余金計算書（要約）

(百万円)

科 目	当期(第95期)	前 期(第94期)
資 本 剰 余 金		
資 本 剰 余 金 期 首 残 高	2,229	2,229
資 本 剰 余 金 期 末 残 高	2,229	2,229
利 益 剰 余 金		
利 益 剰 余 金 期 首 残 高	3,909	3,574
利 益 剰 余 金 増 加 額	538	486
利 益 剰 余 金 減 少 額	165	151
利 益 剰 余 金 期 末 残 高	4,282	3,909

### 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

(百万円)

科 目	当期(第95期)	前 期(第94期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	742	293
投資活動によるキャッシュ・フロー	△601	△198
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15	△414
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1
現金及び現金同等物の増加額	126	△317
現金及び現金同等物の期首残高	1,550	1,867
現金及び現金同等物の期末残高	1,676	1,550



## 単独決算

表示金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表（要約）

科 目	当期(第95期)	前期(第94期)
<b>流 動 資 産</b>	<b>8,538</b>	<b>7,706</b>
現 金 及 び 預 金	1,492	1,424
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	4,317	3,942
た な 卸 資 産	2,253	1,797
そ の 他	480	556
貸 倒 引 当 金	△4	△13
<b>固 定 資 産</b>	<b>9,944</b>	<b>9,487</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>7,286</b>	<b>7,609</b>
建 物 及 び 構 築 物	5,340	5,623
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	1,420	1,535
そ の 他	525	450
<b>無形固定資産</b>	<b>23</b>	<b>34</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,634</b>	<b>1,843</b>
投 資 有 価 証 券	2,351	1,555
そ の 他	382	306
貸 倒 引 当 金	△98	△18
<b>資 産 合 計</b>	<b>18,483</b>	<b>17,194</b>

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 13,451百万円

科 目	当期(第95期)	前期(第94期)
<b>流 動 負 債</b>	<b>5,485</b>	<b>5,041</b>
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	1,197	1,189
短 期 借 入 金	3,152	3,051
そ の 他	1,135	799
<b>固 定 負 債</b>	<b>4,184</b>	<b>4,083</b>
長 期 借 入 金	1,423	1,395
退 職 給 付 引 当 金	1,142	1,483
そ の 他	1,618	1,203
<b>負 債 合 計</b>	<b>9,669</b>	<b>9,124</b>
<b>資 本</b>		
資 本 金	2,509	2,509
資 本 剰 余 金	2,229	2,229
利 益 剰 余 金	3,574	3,295
株 式 等 評 価 差 額 金	1,112	642
自 己 株 式	△612	△604
<b>資 本 合 計</b>	<b>8,813</b>	<b>8,069</b>
<b>負 債 及 び 資 本 合 計</b>	<b>18,483</b>	<b>17,194</b>

## 損益計算書（要約）

(百万円)

科 目	当期(第95期)	前 期(第94期)
売 上 高	11,866	10,366
売 上 原 価	8,979	8,183
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,839	1,691
當 業 利 益	1,047	491
當 業 外 収 益	271	237
當 業 外 費 用	394	263
經 常 利 益	923	466
特 別 利 益	—	297
特 別 損 失	70	320
税 引 前 当 期 純 利 益	852	443
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	170	15
法 人 税 等 調 整 額	240	181
当 期 純 利 益	441	246
前 期 繰 越 利 益	992	840
中 間 配 当 額	75	63
当 期 未 処 分 利 益	1,358	1,023

(注) 関係会社出資金の評価損を特別損失に計上しております。

## 利益処分

(百万円)

科 目	当期(第95期)	前 期(第94期)
当 期 未 処 分 利 益	1,358	1,023
買 換 資 産 圧 縮 積 立 金 取 崩 額	54	55
計	1,412	1,079
利 益 配 当 金	126	63
	(普通配当 1株につき3円 創立75周年記念配当 1株につき2円)	(1株につき 2円50銭)
役 員 賞 与 金	33	24
次 期 繰 越 利 益	1,253	992



## 特集

### 5.創立75周年にあたって

# オンリーワンの技術で、ナンバーワンの製品を

今年、創立75周年を迎えた日本タングステン。業界のトップランナーとして今、何を考え、どのようなベクトルで躍進しようとしているのか。吉田省三社長に聞いた。



#### 創立75周年にあたり、 どのような感想をお持ちでしょうか。

当社を築き上げてきた先人に敬意を表すとともに、株主さまはじめ関係各位の皆さまに深く感謝申し上げます。長い歳月にはいろいろなことがありました。特にこの5、6年を振り返ると、天国と地獄が交互に来たような激動の数年間でした。平成12年度はIT景気に沸き史上最高の利益をあげましたが、翌年はITバブルの崩壊とデフレの進行により営業損益で初の赤字を計上する状況に。このため平成13年から14年にかけて早期退職者を募り、100名を超える退職者を出さざるを得ませんでした。しかし地道な経営体質強化が功を奏し、この時期においても少額ながら配当を維持したことを誇りとしています。私は平成15年に社長に就任しましたが、就任以降は経営環境も良く、順調に推移しています。



創業当時の工場全景

#### 現在、特に力を入れている分野はありますか。 また、マテリアルの将来性についてお聞かせください。

当社はフィラメントから出発し、その後もタングステンをベースとした材料を用い、独自の粉末冶金技術によりさまざまな製品を作っていました。この柱に加え、超硬合金製NTダイカッターやセラミック材料による工具の開発に成功し、また磁気ヘッド基板を開発するなど電子デバイスの分野で大

きなシェアを獲得するに至っています。希望を言えば、この3つの柱に加え、あと2つほど柱が欲しいですね。マテリアルは社会にとって必要不可欠なものです。時代の推移とともに、もてはやされる素材は変わりますが、当社にとって、マテリアルが基本であることに変わりはありません。

### 先進技術の中で、特に誇りとされる技術はありますか。また研究開発の分野ではいかがでしょう。

やはり、材料粉末を焼結(固化)する製造プロセスでしょう。現在、高分子溶液からセラミック粉体を生成してナノ構造を有するセラミック複合材料の開発などを進めています。また効率的で低成本、しかも高いクオリティーを維持する製造プロセスの開発も進めています。研究開発はまずお客様のニーズありき、です。そのニーズを素早くキャッチして、お応えできるものを創ることが肝要だと思います。

### 環境への取り組みの中で、特筆すべきものをお聞かせください。

ムダを出さないこと、そして省エネ。当たり前のことですが、それが基本です。当社はISO14001を取得した3工場を統合して、環境保全活動のベクトルを統一する計画を推進しています。ここ数年、品質管理・環境保全の統合が大きなニーズになっており、当社でもISO9001とISO14001の連携を含めた効率的な運用も考えています。最近、環境にやさしい「樹脂タングステン」を開発しました。これからは研究開発に際しても、環境への影響評価を行い、環境にやさしいモノづくりを目指していくつもりです。当社のスタンスを一言でい



えば「環境にやさしい製品を、環境にやさしく作る」。収益とのバランスを取りながら環境保全活動を推進していきます。

### 最近では海外、特にアジアへの展開を図られていますね。

中国の人口は約13億、インドの人口は約11億。その他の国も含めアジアは巨大なマーケットです。当社は中国に4社、タイに1社の合弁・日系企業に出資しています。これからは生産会社だけではなく、販売会社も設置する計画です。さまざまなものリスク



平成17年7月に関連会社となった中国上海電科電工材料有限公司  
(中国上海市)との設立大会の様子。

はあっても、この地域で事業を拡大し、成功することが、今後の当社の発展につながると思います。

### コンプライアンス(法令遵守)などに対する取り組みと、社会貢献への考え方をお聞かせください。

当社は「創意・誠意・熱意」という経営方針のもと、コンプライアンスと高い企業倫理を確立・実践するために「日本タンクステン企業行動憲章」を制定しています。また内部監査室を社内に設置し、コンプライアンスの方針と内部統制の徹底を図っています。

社会は目まぐるしく変化し、日々、さまざまなニーズが生まれています。私たちはマテリアルを基本に、そのニーズに応えるカスタマーフレンドリー企業として、豊かな暮らしづくりに貢献していきたいと思っています。

# 6. タングステンのすべて

皆さまはタングステンについてどこまでご存じでしょうか？ タングステンをより知っていただくために、このシリーズで分かりやすくご紹介していきます。

Vol. 1

## タングステンの別名はオオカミ？

1781年スウェーデンのカール・ヴィルヘルム・シェーレが三酸化タングステンの分離に成功し、タングステン酸と命名。1783年、スペインのファン・ホセとファウストのエルヤル兄弟がタングステン酸を木炭で還元して初めて単体を得て、ウォルフラムと命名しました。

タングステン (Tungsten) とは、スウェーデン語で「重い石」という意味。元素記号のWはドイツ語のWOLFRAM(ウォルフラム)にちなんでいます。これは、タングステン鉱石(鉄マングン重石=wolfart)から来ており、これが錫鉱石の中に混入すると、鉱屑を作つて錫の精製を阻害することから、錫を狼のようにむさぼり食べるという意味で名付けられました。

カール・ヴィルヘルム・シェーレ  
Karl Wilhelm Scheele

カール・ミレスによるこの彫刻は、ストックホルムのミレスガーデルで観ることができる。



## タングステンは、熱に強い希少金属

タングステンの融点は金属の中で最も高い摂氏3,380°Cで、沸点は摂氏5,000°Cを超えます。比重は19.3と金とほぼ同じで、鉄の約2.5倍。希少金属のひとつです。この熱に強いという性質を利用して、電球のフィラメントや電子レンジのマグネットロンに、また硬くて強いという性質を利用して、コピー機や空気清浄機に入っているコロナ放電線などに使われています。当社では、照明・OA機器用のタングステンの線や、液晶関連部材用のタングステン・モリブデン棒製品等を生産しています。特にハロゲンランプのフィラメントに使用されているタングステン線・B701ロットは、世界的に高い評価を受けています。

中国湖南省の海拔850mの鉱脈で産出されたタングステン鉱石。硫化鉄鉱、白雲母、及びその他の水晶と、およそ74%の三酸化タングステン( $WO_3$ )を含有している。



## タングステンの83%は中国生まれ



海外の鉱山での地下採掘のようす

タングステンは世界各地に埋蔵されており、その埋蔵量は全世界でおよそ7百万トンといわれています。その57%を中国が占め、産出量からいくと実に83%を占めています。日本にもタングステンは埋蔵されており、かつては日本でも産出が行われましたが、現在、商業ベースでの生産は行われていません。当社もその昔、鹿児島県屋久島、山口県秋穂町(現・山口市)で鉱山開発を行ったことがあります。

タングステンは市場ではAPT(パラタングステン酸アンモニウム)として10kgあたりの価格で取引されています。価格は2年前の100USドルから現在では2.5倍の250USドル前後で推移しており、高値が続いています。

## こんなところにもタングステン

先に述べた電球のフィラメントをはじめ、用途はいろいろ。例えば、比重が大きいという性質を活かして、釣りのおもり(シンカー)、ゴルフ道具等のウエイトや、鉛に替わる放射線の遮蔽用として。また、音響インピーダンスが高いにも関わらず高い音速を持つという特性を活かして、楽器やオーディオ関連の部品としても利用されています。そして、耐摩耗性を利用してタングステンと銅の合金による電気接点、電極に。さらに、炭素とタングステンの化合物は、ダイヤモンド、炭化ホウ素に次ぐ超硬合金として切削工具や耐摩耗工具に使われています。



鉛に替わる新素材、環境に優しい高比重タングステンシート

## 7.会社の概要(平成18年3月31日現在)

■設立	1931年(昭和6年)4月1日
■資本金	25億950万円
■従業員数	538名(単体482名)
■本社	福岡市博多区美野島一丁目2番8号
■事業所	東京支店、名古屋支店、大阪支店、福岡支店、基山工場、飯塚工場、宇美工場
■役員	(平成18年6月29日現在)
取締役社長	吉田省三(代表取締役)
専務取締役	小倉伸一
常務取締役	石橋修
常務取締役	怡土宣彦
取締役	高尾幸生
取締役	石松茂(新任)
取締役	坂口茂也(新任)
取締役	鎌田迪貞九州電力株式会社代表取締役会長
監査役	原芳道(常勤)
監査役	小川誠(常勤)(新任)
監査役	今村毅九州電力株式会社代表取締役副社長
監査役	末松修株式会社福岡銀行専務取締役

## 8.企業結合の状況

### ■連結子法人

株式会社 昭和電気接点工業所	福岡県飯塚市	電気接点、その他電子部品の製造販売
株式会社 福岡機器製作所	福岡市博多区	産業用機械装置類の製造販売ならびに修理に関する工事
株式会社 エヌ・ティーサービス	福岡市博多区	不動産の管理、損害保険・生命保険代理業、商品販売

### ■持分法適用関連会社

S Vニッタン株式会社	タイ国バンコク市	超硬工具および超硬精密製品の製造販売
四平日本タングステン有限会社	中国吉林省	タングステン・モリブデン製品、合金材料の製造販売
九江日本タングステン有限会社	中国江西省	タングステン・モリブデン製品、合金材料の製造販売
上海電科電工材料有限会社	中国上海市	電気接点製品の製造販売
上海三義精密模具有限会社	中国上海市	精密金型、プレス部品、射出成型品、半導体製造設備および自動化設備の製造販売

※サハビリヤニッタン株式会社およびS Vニッタンプレシジョン株式会社は、平成17年12月に合併し、S Vニッタン株式会社となりました。

※上海電科電工材料有限会社は、平成17年7月に新たに関連会社となりました。※上海三義精密模具有限会社は、平成18年1月に新たに関連会社となりました。

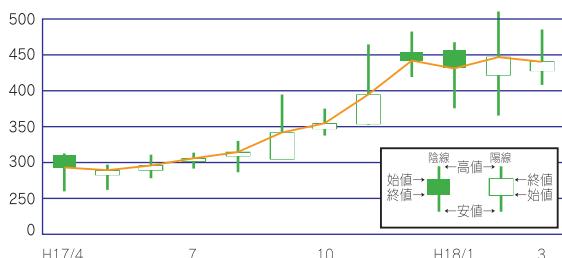
## 9. 株式の状況 (平成18年3月31日現在)

■発行可能株式総数	100,000,000株
■発行済株式の総数	27,777,600株
■単元株式数	1,000株
■株主数	3,811名
■大株主	(千株、%)

株主名	持株数	出資比率
パンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウンツ イーアイエスジー	1,851	6.6
九州電力株式会社	1,666	6.0
株式会社福岡銀行	1,236	4.4
共栄海上火災保険株式会社	1,117	4.0
みずほ信託銀行株式会社	643	2.3
日本タングステン従業員持株会	626	2.2
日本証券金融株式会社	617	2.2
明治安田生命保険相互会社	601	2.1
株式会社西日本シティ銀行	509	1.8
株式会社佐賀銀行	500	1.8
株式会社NEOMAX	500	1.8

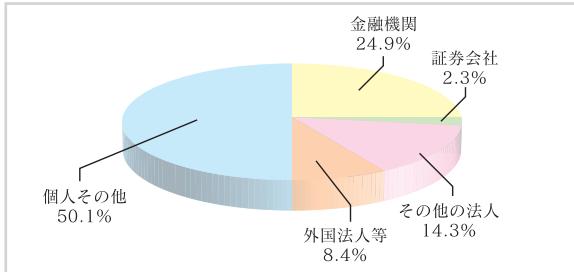
※持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。  
※上記のほか、自己株式を2,555千株所有しております。

### ■株価の推移(円)

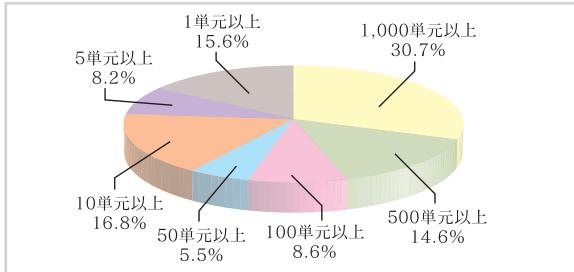


### ■株式の分布状況

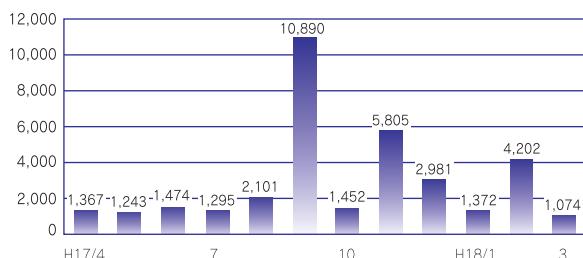
#### ◎所有者別



#### ◎所有数別



### ■出来高の推移(千株)



## 株主メモ

決算期  
基準日

3月31日  
定期株主総会、期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日  
そのほか必要あるときは  
あらかじめ公告して定めます。  
6月  
東京（2部）、福岡  
6998  
東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

同取次所

お問い合わせ先

公 告 方 法

みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほインベスターズ証券株式会社 本支店  
〒135-8722

東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話0120-288-324（フリーダイヤル）  
当社のホームページ（<http://www.nittan.co.jp/>）  
に掲載します。ただし、電子広告によることが  
できない事故その他のやむを得ない事由が生じた  
ときは、日本経済新聞に掲載します。

## ご案内

株式の名義書換、単元未満株式の買取請求、配当金振込銀行の変更などの諸手続きに必要な書類や手続き方法は、  
下記みずほ信託銀行のホームページ“お手続内容”でご覧いただけます。

<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>

 日本タングステン株式会社

本社 〒812-8538 福岡市博多区美野島一丁目2番8号  
TEL(092)415-5500(代表) FAX(092)415-5511  
ホームページアドレス <http://www.nittan.co.jp/>



古紙配合率100%  
再生紙を利用しています。



この報告書は、環境にやさしい大豆インクと  
再生紙を利用しています。

意 Style  
【KOKORO】 2006年 6月発行